

は し が き

文教大学言語文化研究所は、ことして4周年を迎えることになり、1990年度のはじめから研究所の機構が、わずかではあるが、拡充された。言うまでもなく、本研究所に課せられた「人間の言語と文化」に関する研究・教育の活動をより活発、かつ有効に進めることができるようにとの見地からの組織改善である。

いままでは、研究部と研修部の2部と事務室とで構成されていたが、これからは、「日本語研修課程」を研修部から切り離して独立させ、2部、1課程と事務室という組織にした。これは文学部と言語文化研究所が創設されたときからの構想であったが、今年からいよいよ文学部学生の日本語教育の教育実習が当研究所で始まるからである。文学部の教員の兼担ではあるが課程主任を置き、さらに研究所専任の教員を1名増加し、「日本語研修課程」の充実を図った。

研修部では、昨年度文教大学・埼玉県教育委員会共催の公開講座「世界のことば・文学・文化」(全10回)を文学部と協同で企画、運営し、予想をはるかに越す受講者があった。また、一般社会人を対象にした小クラス制の各種語学講座も、例年どおり開かれている。加えてこの4月から本研究所の客員研究員である葛新民さんに絵画教室をお願いしているが、好評を博しているようで、まことに嬉しいことである。なお、例年夏休みに行われる教育関係者を対象にした講座は、ことしは「日本語教育」「英語教育」「漢文教育」の3講座が埼玉県教育委員会の後援で行われることになっている。

研究部では、専任の研究員が日本語教育関係の研究に携わっており、また、海外からあらたに客員研究員4名を迎え、本学の教育学部専任教員と

の共同により、それぞれ美術、文学、教育思想の分野で比較研究が開始されている。いずれも立派な研究成果が挙げられることを期待している。

最後に、本紀要にご労作の論考を寄せられた諸氏に感謝するとともに、事務的な面でいろいろ面倒をみていただいた研究員の田中さんと事務室の今井さんに厚く御礼を申し上げたい。

文教大学言語文化研究所所長

伊 藤 健 三